

Ⅲ 市区町村及び地域別の人口

Ⅲ 市区町村及び地域別の人口

1 総人口・男女別人口・人口密度

人口 30 万人以上の市区町村は 4 市区

神奈川県を 58 市区町村*別にみると、藤沢市が 43 万 6905 人で最も多く、次いで横須賀市（38 万 8078 人）、以下、横浜市港北区（35 万 8530 人）、同青葉区（31 万 756 人）の順で、4 市区が 30 万人以上である。

20 万人以上 30 万人未満の市区町村は横浜市鶴見区（29 万 7437 人）等 18 市区、10 万人以上 20 万人未満の市区町村は横浜市金沢区（19 万 8939 人）等 18 市区である。

1 万人以上 10 万人未満の市区町村は綾瀬市（8 万 3913 人）等 14 市町、1 万人未満の市区町村は山北町（9761 人）等 4 町村である。

※ 58 市区町村は、指定都市の横浜市 18 区、川崎市 7 区、相模原市 3 区の計 28 区と指定都市以外の 30 市町村。

（図Ⅲ－1－1）

人口は 32 市区町で増加し、26 市区町村で減少

平成 27 年～令和 2 年の人口増減をみると、58 市区町村のうち、32 市区町で人口が増加し、26 市区町村で減少した。

人口増加数が最も多かった市区町村は川崎市中原区の 1 万 6154 人で、次いで横浜市港北区（1 万 4358 人）、以下、藤沢市（1 万 3011 人）、横浜市鶴見区（1 万 2081 人）、川崎市幸区（1 万 229 人）の順である。

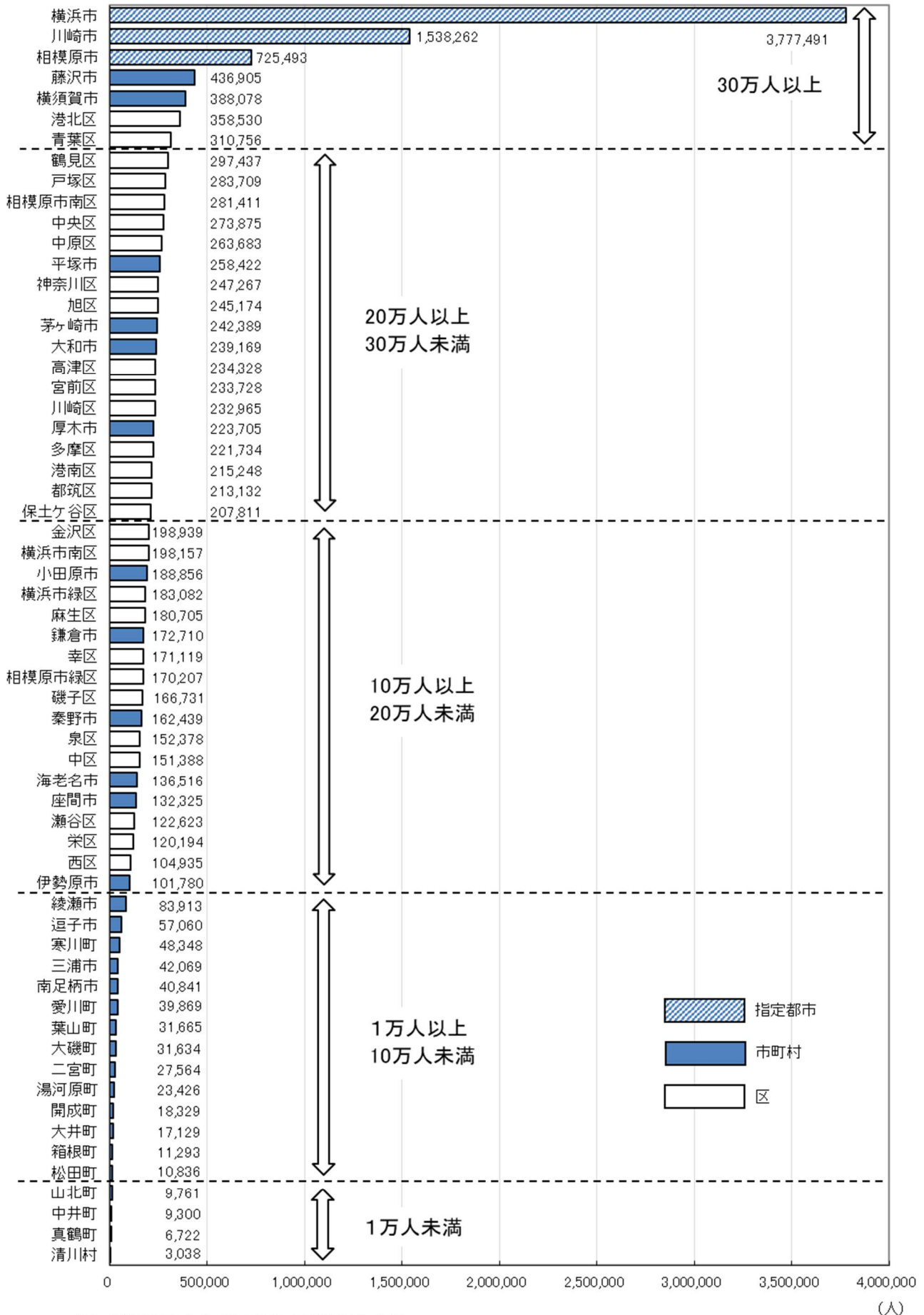
人口減少数が最も多かった市区町村は横須賀市の 1 万 8508 人で、次いで小田原市（△5230 人）、以下、秦野市（△4939 人）、相模原市緑区（△3405 人）、横浜市金沢区（△3290 人）の順である。

人口増加率が最も高かった市区町村は開成町の 7.7%で、次いで川崎市中原区（6.5%）、以下、横浜市西区（6.5%）、川崎市幸区（6.4%）、海老名市（4.9%）の順である。

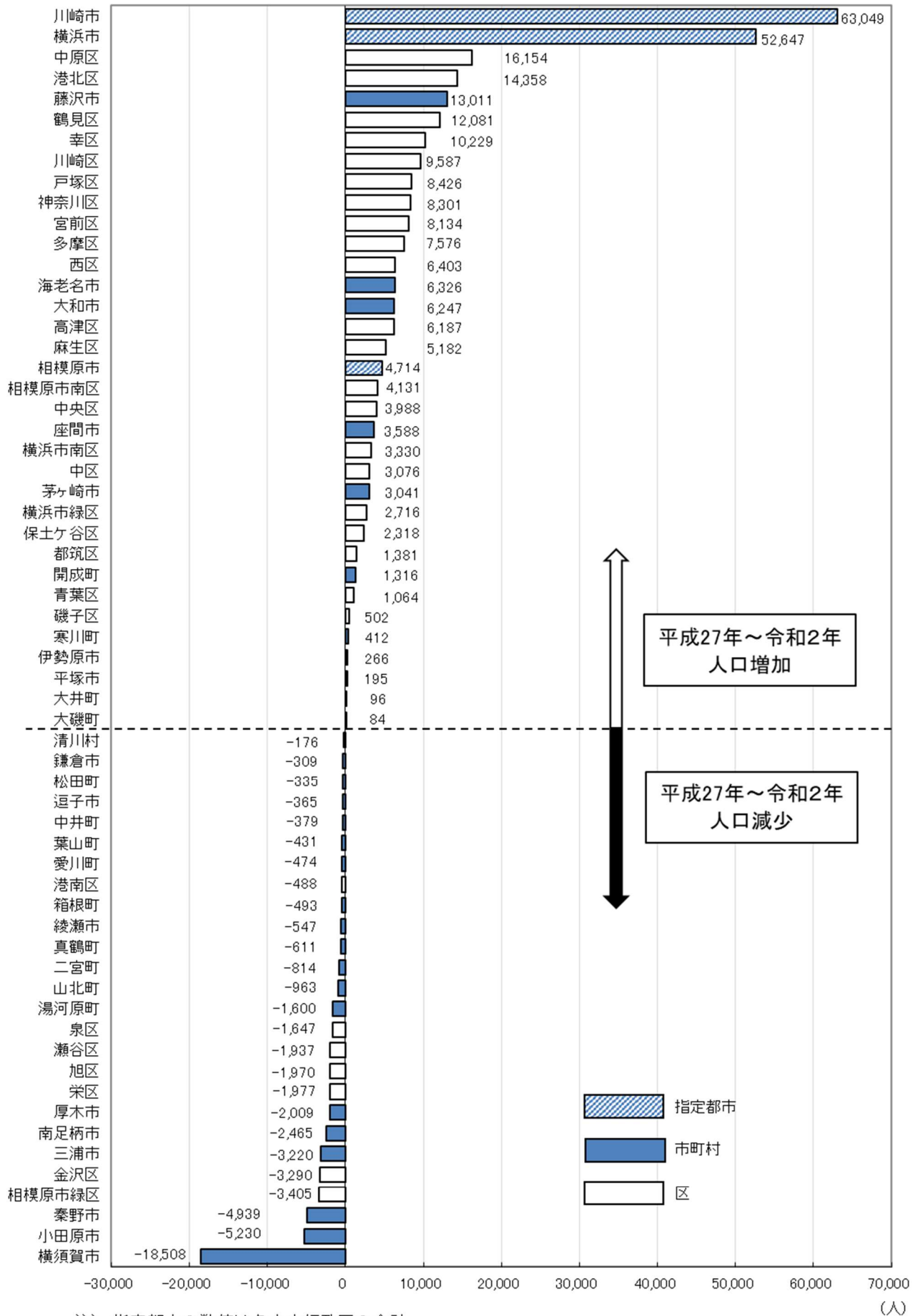
人口減少率が最も高かった市区町村は山北町の 9.0%で、次いで真鶴町（△8.3%）、以下、三浦市（△7.1%）、湯河原町（△6.4%）、南足柄市（△5.7%）の順である。

（図Ⅲ－1－2、図Ⅲ－1－3）

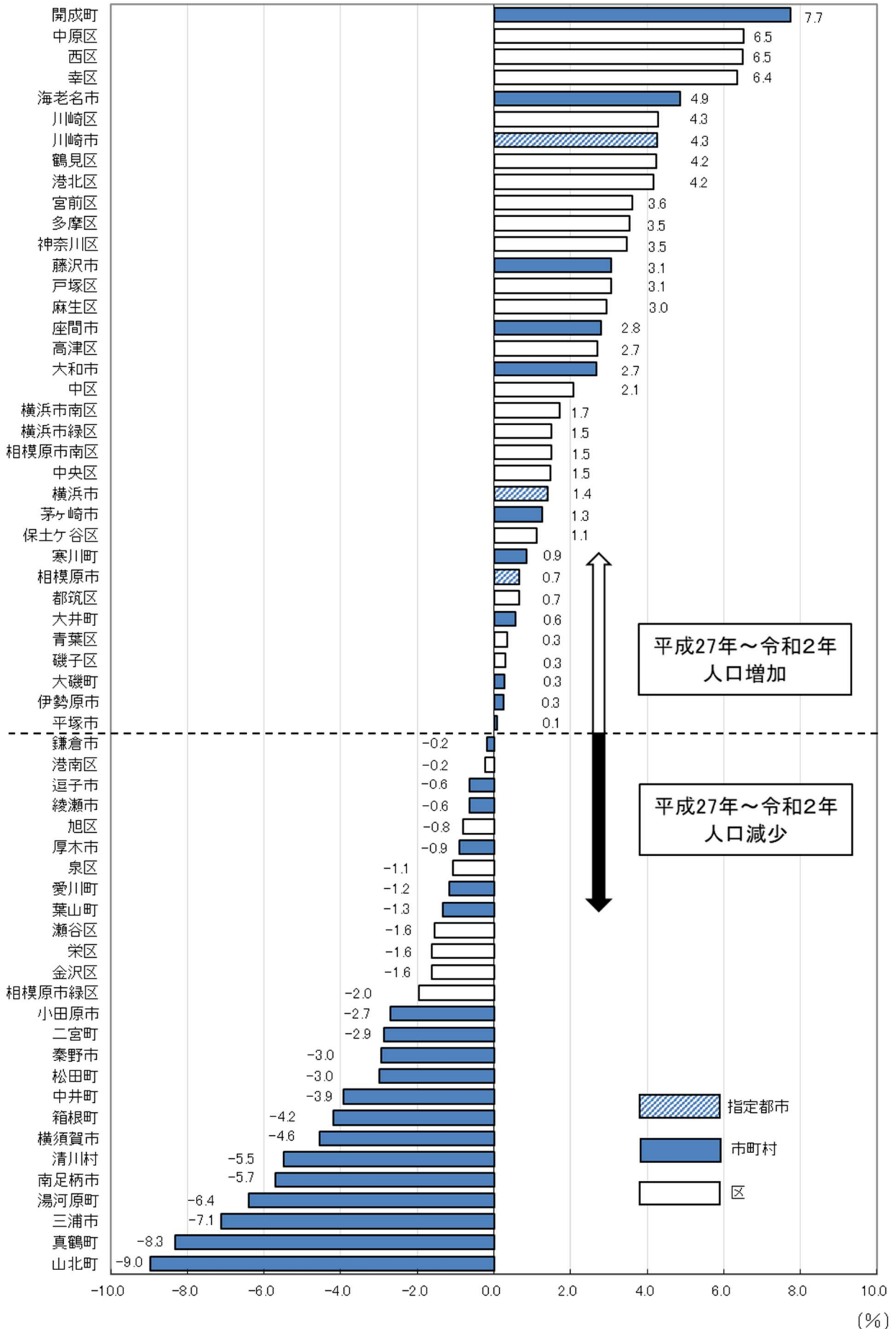
図Ⅲ-1-1 人口-市区町村（令和2年）



図Ⅲ-1-2 人口増減数—市区町村（令和2年）



図Ⅲ-1-3 人口増減率—市区町村（令和2年）



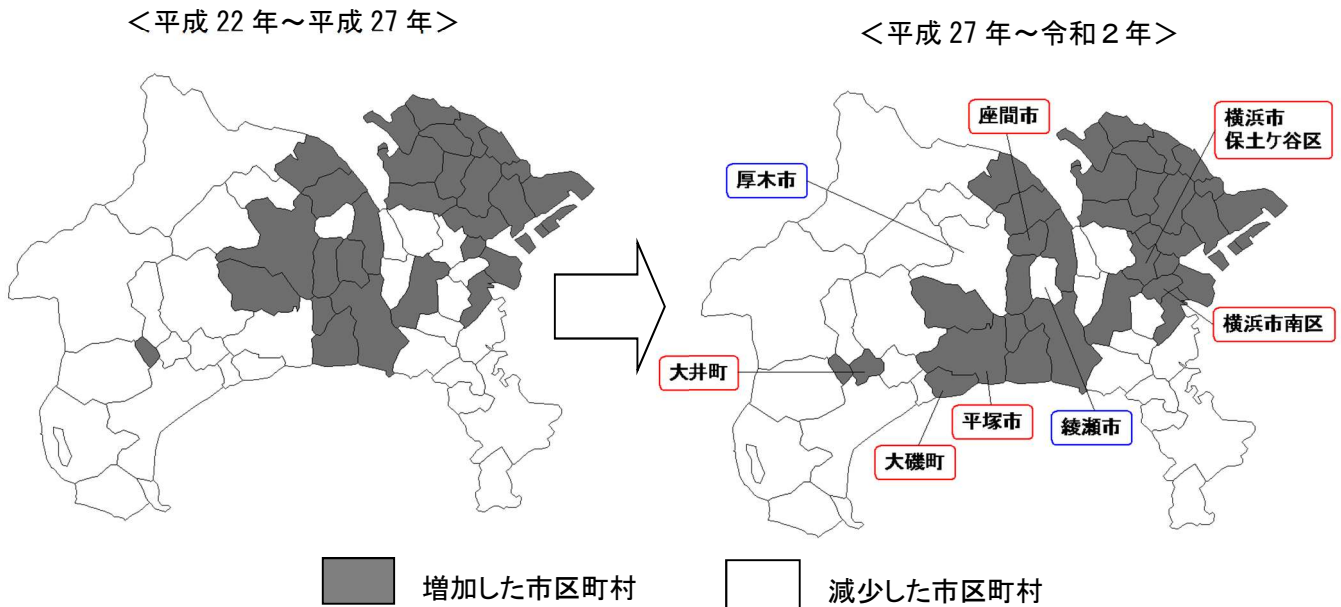
注) 指定都市の数値は各市市内行政区の合計から算出
 (横浜市:鶴見区等18区、川崎市:川崎区等7区、相模原市:緑区等3区)

(%)

前回調査からの人口増減が減少から増加に転じた市区町村は横浜市南区、同保土ヶ谷区、平塚市、座間市、大磯町、大井町の6市区町で、人口増減が増加から減少に転じた市区町村は厚木市、綾瀬市の2市である。

(図Ⅲ-1-4)

図Ⅲ-1-4 前回調査からの人口増減-市区町村 (平成27年、令和2年)



市部の人口は894万8千人、県人口の96.9%を占める

神奈川県の人人口のうち、市部の人口の合計は894万8423人で、神奈川県の人人口の96.9%を占める。平成27年と比べると、11万5492人の増加で、人口増加率は1.3%である。

町村部の人口の合計は28万8914人で、神奈川県の人人口の3.1%を占める。平成27年と比べると、4368人の減少で、人口減少率は1.5%である。

(表Ⅲ-1-1)

表Ⅲ-1-1 人口、人口増減-市部、町村部 (平成27年、令和2年)

市部、町村部	平成27年 (組替)	令和2年			増減数	増減率	県人口に 占める割合
		総数	男	女			
県計	人	人	人	人	人	%	%
市部計	9,126,213	9,237,337	4,588,268	4,649,069	111,124	1.2	—
町村部計	293,282	288,914	142,188	146,726	-4,368	-1.5	3.1

注) 平成27年(組替)は、令和2年10月1日現在の市区町村の境域に基づいて組み替えた平成27年の人口。

3 指定都市の人口は 604 万 1 千人、3 指定都市すべてで人口が増加

神奈川県の人人口のうち、指定都市（横浜市、川崎市、相模原市）の人人口の合計は 604 万 1246 人で、神奈川県の人人口の 65.4%を占める。

人口が最も多い指定都市は横浜市の 377 万 7491 人で、次いで川崎市（153 万 8262 人）、相模原市（72 万 5493 人）の順である。

平成 27 年～令和 2 年の人口増減をみると、3 指定都市すべてで人口が増加し、人口増減数の合計は 12 万 410 人の増加である。

横浜市は 5 万 2647 人（1.4%）の増加（18 区のうち 12 区が増加、6 区が減少）、川崎市は 6 万 3049 人（4.3%）の増加（7 区すべてが増加）、相模原市は 4714 人（0.7%）の増加（3 区のうち 2 区が増加、1 区が減少）である。

（表Ⅲ－1－2、第 2 表）

表Ⅲ－1－2 人口、人口増減－指定都市（平成 27 年、令和 2 年）

指定都市	平成27年 (組替)	令和 2 年			増減数	増減率	県人口に 占める割合
		総数	男	女			
	人	人	人	人	人	%	%
県計	9,126,213	9,237,337	4,588,268	4,649,069	111,124	1.2	—
指定都市計	5,920,836	6,041,246	3,005,270	3,035,976	120,410	2.0	65.4
横浜市	3,724,844	3,777,491	1,867,305	1,910,186	52,647	1.4	40.9
川崎市	1,475,213	1,538,262	775,772	762,490	63,049	4.3	16.7
相模原市	720,779	725,493	362,193	363,300	4,714	0.7	7.9
指定都市以外	3,205,377	3,196,091	1,582,998	1,613,093	-9,286	-0.3	34.6

注）平成27年（組替）は、令和2年10月1日現在の市区町村の境域に基づいて組み替えた平成27年の人口。

4 地域（横浜、川崎、県央、湘南）で人口が増加し、2 地域（横須賀三浦、県西）で減少

神奈川県の人人口を 6 地域別（横浜地域、川崎地域、横須賀三浦地域、湘南地域、県央地域、県西地域）にみると、人口が最も多い地域は横浜地域の 377 万 7491 人で、次いで県央地域（158 万 4028 人）、以下、川崎地域（153 万 8262 人）、湘南地域（130 万 9481 人）、横須賀三浦地域（69 万 1582 人）、県西地域（33 万 6493 人）の順である。

平成 27 年～令和 2 年の人口増減をみると、横浜地域、川崎地域、県央地域及び湘南地域で人口が増加し、横須賀三浦地域と県西地域で減少した。

横須賀三浦地域は 2 万 2833 人（3.2%）の減少（5 市町すべてが減少）、県央地域は 1 万 7669 人（1.1%）の増加（8 市町村のうち 4 市が増加、4 市町村が減少）、湘南地域は 1 万 1256 人（0.9%）の増加（8 市町のうち 6 市町が増加、2 市町が減少）、県西地域は 1 万 664 人（3.1%）の減少（10 市町のうち 2 町が増加し、8 市町が減少）である。

（表Ⅲ－1－3、第 2 表）

表Ⅲ－１－３ 人口－地域（平成27年、令和2年）

地域	平成27年 (組替)	令和2年			増減数	増減率	県人口に 占める割合
		総数	男	女			
	人	人	人	人	人	%	%
県計	9,126,213	9,237,337	4,588,268	4,649,069	111,124	1.2	—
横浜地域	3,724,844	3,777,491	1,867,305	1,910,186	52,647	1.4	40.9
川崎地域	1,475,213	1,538,262	775,772	762,490	63,049	4.3	16.7
横須賀三浦地域	714,415	691,582	336,385	355,197	-22,833	-3.2	7.5
県央地域	1,566,359	1,584,028	796,770	787,258	17,669	1.1	17.1
湘南地域	1,298,225	1,309,481	649,042	660,439	11,256	0.9	14.2
県西地域	347,157	336,493	162,994	173,499	-10,664	-3.1	3.6

注 1) 平成27年(組替)は、令和2年10月1日現在の市区町村の境域に基づいて組み替えた平成27年の人口。

2) 地域の区分は以下のとおり。

横浜地域…横浜市

川崎地域…川崎市

横須賀三浦地域…横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町

県央地域…相模原市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村

湘南地域…平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町

県西地域…小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町

人口性比が最も高いのは川崎市川崎区、最も低いのは湯河原町

人口性比を58市区町村別にみると、19市区町村で100以上であり、人口性比が最も高い市区町村は川崎市川崎区の116.0で、次いで愛川町(110.0)、以下、横浜市鶴見区(106.6)、厚木市(106.4)、清川村(105.0)の順である。

人口性比が最も低い市区町村は湯河原町の86.8で、次いで真鶴町(86.8)、以下、逗子市(88.1)、鎌倉市(88.5)、葉山町(89.0)の順である。

(第2表、参考2)

人口密度が最も高いのは川崎市中原区、最も低いのは清川村

人口密度を58市区町村別にみると、人口密度が最も高い市区町村は川崎市中原区の17,888.9人/㎢で、次いで川崎市幸区(17,094.8人/㎢)、以下、横浜市南区(15,664.6人/㎢)、同西区(14,926.7人/㎢)、川崎市高津区(14,323.2人/㎢)の順である。

人口密度が最も低い市区町村は清川村の42.6人/㎢で、次いで山北町(43.5人/㎢)、以下、箱根町(121.6人/㎢)、松田町(287.0人/㎢)、中井町(465.2人/㎢)の順である。

(第2表、参考2)

2 年齢別人口・平均年齢

41 市区町村で 4 人に 1 人以上が 65 歳以上
平均年齢が最も高いのは真鶴町、最も低いのは川崎市中原区

年齢 3 区分別人口を 58 市区町村別にみると、65 歳以上人口の割合が 25%（4 人に 1 人）以上の市区町村は 41 市区町村で、そのうち 65 歳以上人口の割合が 33.3%（3 人に 1 人）以上の市区町村は 10 市町村である。

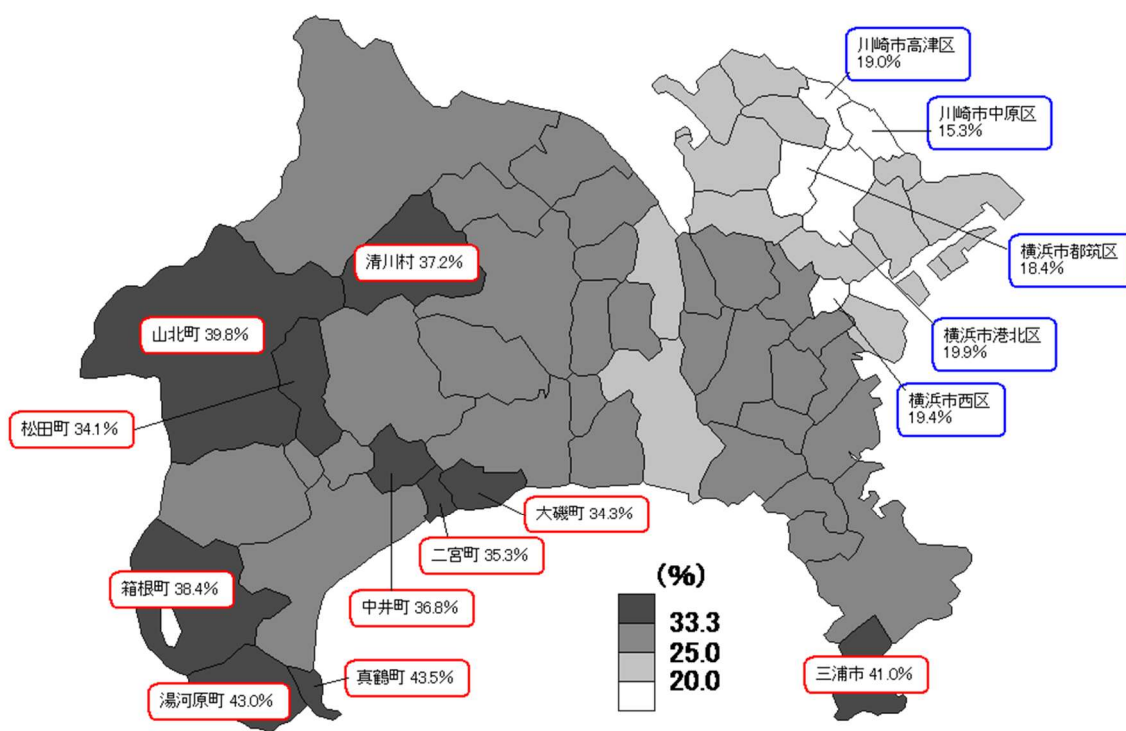
65 歳以上人口の割合が最も高い市区町村は真鶴町の 43.5%で、次いで湯河原町（43.0%）、以下、三浦市（41.0%）、山北町（39.8%）、箱根町（38.4%）の順である。

一方、65 歳以上人口の割合が 20%（5 人に 1 人）未満の市区町村は 5 区で、最も低い市区町村は川崎市中原区の 15.3%、次いで横浜市都筑区（18.4%）、以下、川崎市高津区（19.0%）、横浜市西区（19.4%）、同港北区（19.9%）の順である。

すべての市区町村で、65 歳以上人口の割合が 15 歳未満人口の割合を上回っている。

（図Ⅲ－2－1、第 3 表）

図Ⅲ－2－1 65 歳以上人口の割合－市区町村（令和 2 年）



平均年齢を 58 市区町村別にみると、平均年齢が最も高い市区町村は真鶴町の 56.8 歳で、次いで湯河原町（55.8 歳）、以下、三浦市（54.4 歳）、山北町（54.0 歳）、箱根町（52.7 歳）の順である。

平均年齢が最も低い市区町村は川崎市中原区の 41.2 歳で、次いで横浜市都筑区（43.0 歳）、以下、川崎市高津区（43.1 歳）、同多摩区（43.5 歳）、横浜市港北区（43.7 歳）の順である。

（第 3 表、参考 2）

3 外国人人口

神奈川県外国人人口の 45.0%は横浜市に常住

神奈川県の外国人人口は 19 万 5535 人で、総人口の 2.2%を占めている。

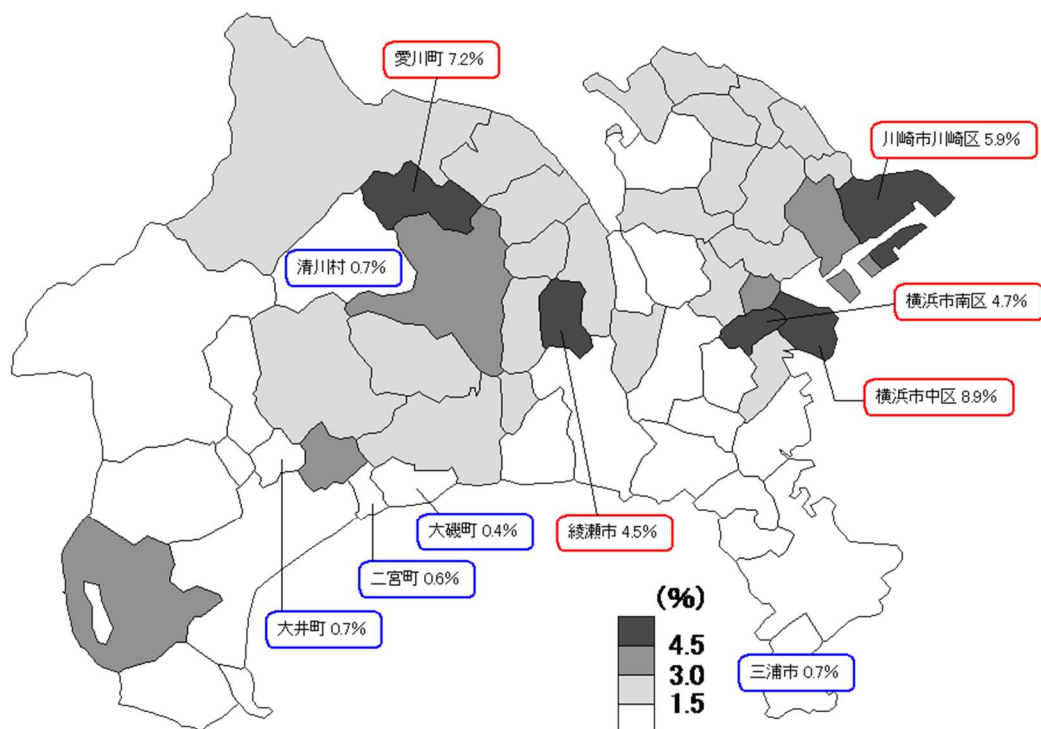
市区町村人口に占める外国人人口の割合を 58 市区町村別にみると、外国人人口の割合が最も高い市区町村は横浜市中区の 8.9%で、次いで愛川町（7.2%）、以下、川崎市川崎区（5.9%）、横浜市南区（4.7%）、綾瀬市（4.5%）の順である。

市区町村人口に占める外国人人口の割合が最も低い市区町村は大磯町の 0.4%で、次いで二宮町（0.6%）、以下、三浦市（0.7%）、大井町（0.7%）、清川村（0.7%）の順である。

なお、33 市区町村別にみると、横浜市の外国人人口は 8 万 8067 人で、神奈川県外国人人口の 45.0%を占めている（横浜市の日本人人口は、県の日本人人口の 40.8%）。

（図Ⅲ－3－1、第 4 表）

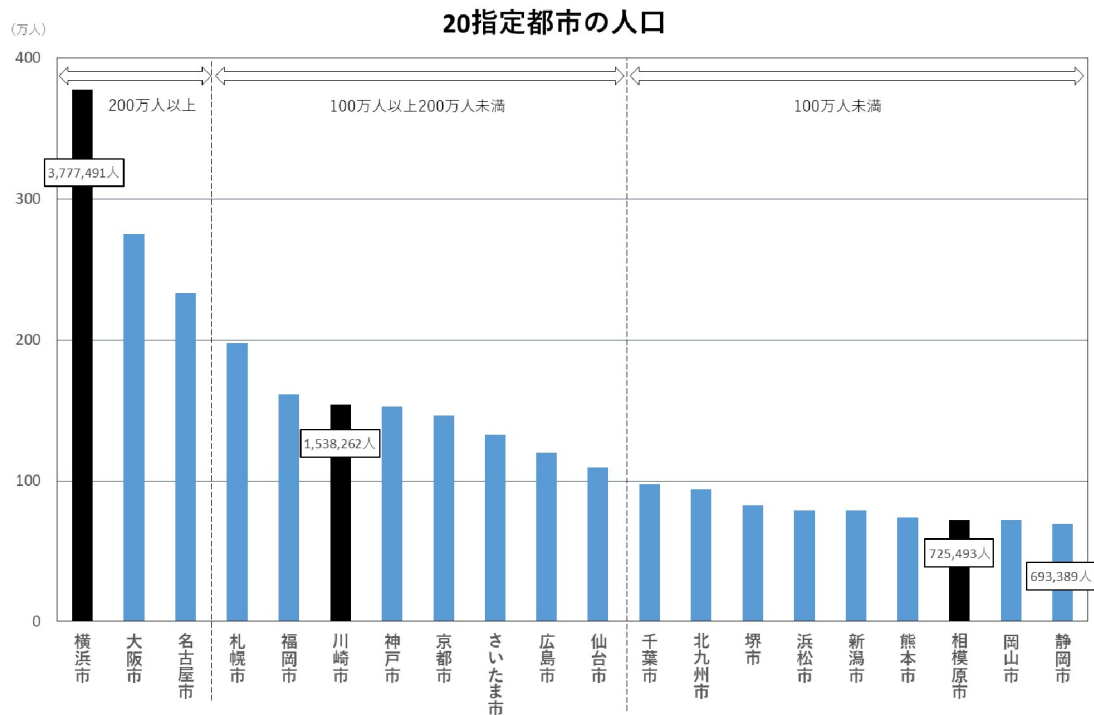
図Ⅲ－3－1 市区町村人口に占める外国人人口の割合－市区町村（令和 2 年）



TOPICS ④ 指定都市の人口

令和2年国勢調査時には全国に20の指定都市があり、横浜市が377万7491人で人口が最も多く、静岡市が69万3389人で最も少ない人口です。川崎市は153万8262人で第6位、相模原市は72万5493人で第18位です。

なお、都道府県別の指定都市数は、神奈川県が3市、静岡県、大阪府及び福岡県が各2市、北海道、宮城県、埼玉県、千葉県、新潟県、愛知県、京都府、兵庫県、岡山県、広島県、熊本県が各1市です。



横浜市は昭和31年9月1日に全国で初めて、大阪市、名古屋市、京都市、神戸市と共に指定都市へ移行しました。移行直後の昭和35年国勢調査時の横浜市の人口は137万5710人です。

川崎市は昭和47年4月1日に全国で7番目に、札幌市、福岡市と共に指定都市へ移行しました。移行直後の昭和50年国勢調査時の川崎市の人口は101万4951人です。

相模原市は平成22年4月1日に全国で19番目に指定都市へ移行しました。移行直後の平成22年国勢調査時の相模原市の人口は71万7544人です。

表 指定都市移行後の人口推移

指定都市 (移行年月日)	昭和35年国勢調査	昭和50年国勢調査	平成22年国勢調査	令和2年国勢調査
横浜市 (昭和31年9月1日)	1,375,710	2,621,771	3,688,773	3,777,491
川崎市 (昭和47年4月1日)	-	1,014,951	1,425,512	1,538,262
相模原市 (平成22年4月1日)	-	-	717,544	725,493

